

資料1 キャリア教育

(中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」 (平成23年1月31日) より抜粋)

1 キャリア教育とは

一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育

(キャリア発達：社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程)

- ポイント1 「勤労観、職業観」のみを育てる教育ではない。
勤労観・職業観の育成に過度に焦点が絞られがちであるが、社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力の育成が、キャリア教育の目指すべき中心的な課題。
- ポイント2 職業教育はキャリア教育と同義ではない。
職業教育は、一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育成するもの。

2 キャリア教育の方向性

<基本的な方向性>

- 後期中等教育修了までに、生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を育成し、これらの育成を通じて、価値観、とりわけ勤労観、とりわけ職業観を自ら形成・確立できる子ども・若者を育成すること。
- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である「基礎的・汎用的能力」を育成すること。
- キャリア教育を実践し、学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連付け、将来の夢と学業を結びつけることにより、児童生徒の学習意欲を喚起すること。

※【「基礎的・汎用的能力」とは】

・「人間関係形成・社会形成能力」

多様な他者を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画することができる力。

・「自己理解・自己管理能力」

自分と社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含め

た肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、進んで学ぼうとする力。

・「課題対応能力」

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

・「キャリアプランニング能力」

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方について、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

3 専門学科における職業教育

- 現在の専門学科は、職業の多様化、職業人として求められる知識・技能の高度化への対応が求められている。職業人としての自己学習力や社会の中で自らのキャリア形成を計画・実行できる力等を育成していくことが必要である。
- また、地域の産業・社会の人材育成と結びつきの強い専門学科は、地域の活性化に貢献してきた。ただし、専門学科の卒業生のうち就職者の就職状況を見ると、職業別では生産工程、労務作業、産業別では製造業が突出しており、昭和40年代と比較すると、一部の学科を除いて学科と職業の関連性は弱まっている傾向にあるといえる。
- このため、地域の産業・社会においてどのような人材が求められているのかを把握し、都道府県ごとに高等学校卒業者の就職割合や地元への就職状況が異なっていることなどにも留意しつつ、その需要にこたえていくため、地域との連携・交流を一層深めるとともに、そのことを通じた実践的な教育や外部人材の協力を得て教育活動等を充実することが必要である。
- これらを踏まえると、今後の専門学科は、次のような人材の育成を中心に考えることが必要である。
 - ・ 卒業後に高度な知識・技術を身に付け、将来の専門的職業人として活躍できる人材の育成
 - ・ 卒業後それぞれの職業に就き、地域の産業・社会を担う人材の育成